

企画展

岐阜和傘

2022年 3月26日(土) ～ 5月22日(日)

※会期中、一部展示替えがあります。

受け継がれる技と美



- 1 舞踊傘 桜型
- 2 日傘 絞り染
- 3 舞踊傘 絹描絵 椿に梅
- 4 蛇の目傘 中五四
- 5 日傘 二重張
- 6 蛇の目傘 四八 切継ぎ模様
- 7 蛇の目傘 月奴

◆ 開館時間／午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

◆ 休館日／3月28日(月)、4月4日(月)・11日(月)・18日(月)・25日(月)、
5月6日(金)・9日(月)・16日(日) ※会期等は今後の新型コロナウイルス感染症の拡大状況等により
変更・中止する場合があります。

◆ 観覧料／高校生以上 310円 (250円) ※ ()内は、20名以上の
小中学生 150円 (90円) 団体割引料金

◆ 主催／岐阜市

◆ 協力／一般社団法人
岐阜和傘協会

- ※下記の方は無料になります。
- ①岐阜市在住の70歳以上の方
 - ②身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳、難病に関する
医療受給者証の交付を受けている方、及びその介護者1人
 - ③岐阜市内の小中学生の方
 - ④家庭の日(4月17日、5月15日)に入館する中学生以下の方と
同伴する家族(高校生以上)の方

岐阜市歴史博物館 1階特別展示室

岐阜和傘

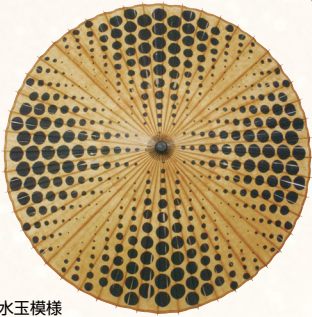
受け継がれる技と美

戦後まもなくまでは、和傘は私たちの日常生活で使われてきました。その様子はさまざまな時代の絵画や写真の中で知ることができます。

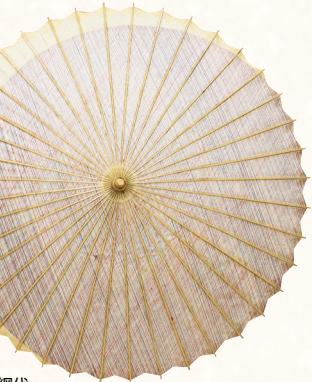
岐阜での和傘づくりは、寛永十六年(一六三九)に松平(戸田)光重が明石から加納へ移封した際、傘職人を連れてきたことから始まったといわれています。岐阜和傘は、たたむと細く収まる「細物」を得意とし、江戸や大坂でも流通しました。明治時代になると、海外でも高い評価を得るようになり、和傘の需要はますます増えました。昭和二十年代中頃には年間二千万本を超える和傘が作られ、現在では岐阜市の伝統工芸品の一つとなっています。

本展では美しい岐阜和傘とともに、和傘が描かれた浮世絵やポストカード、岐阜和傘の歴史や製作道具、そして職人により受け継がれてきた繊細で優れた技術をご紹介します。

日傘 二重張



輸出用傘 水玉模様



日傘 月奴網代



三めくりの夕立 展示期間：4月12日～4月24日



傘張り図(「職人尽絵」全18図の内)



舞踊傘 紗助六

実演「和傘製作」

4月3日・10日・17日・24日、5月1日・3日・5日・8日・14日
各日 10:00～12:00、13:30～15:30

講師：岐阜和傘職人のみなさん

※企画展観覧者は自由にご覧いただけます。

※館内の混雑状況により、人数の制限をさせていただく場合があります。

ご理解・ご協力をお願いいたします。

※講師、実演内容の詳細については、歴史博物館ホームページをご確認ください。

【新型コロナウイルス感染症拡大防止対策実施中】

※ご入館にあたり、手指消毒、検温等にご協力ください。

※館内の混雑状況により、入場制限させていただく場合があります。ご理解・ご協力をお願いいたします。

※会期等は今後の新型コロナウイルス感染症の拡大状況等により変更・中止する場合があります。

岐阜市歴史博物館

〒500-8003 岐阜市大宮町2丁目18番地1(岐阜公園内)

TEL 058(265)0010 FAX 058(265)0106

URL <https://www.rekihaku.gifu.gifu.jp/>



JR岐阜駅前・名鉄岐阜駅前からいずれも岐阜バスで
長良橋・岐阜公園経由各方面行き[N系統]乗車(約15分)
「岐阜公園歴史博物館前」下車すぐ
駐車場／岐阜公園堤外駐車場(1回 310円)をご利用ください。
※駐車台数に限りがありますので、なるべく公共交通機関をご利用ください。